

Spifire Mk.Vb

童友社 1/100スケールプラスチックキット

製作・文: 政府開発援助

## 1. スピットファイア Mk.Vbについて

「イギリスの救世主」と称えられ「女王陛下の」という称号が冠されることの多いスピットファイアシリーズは1936年頃原型機が完成、バージョンアップを重ねながら第二次世界大戦終了まで第一線で戦い続けた。スピットファイアの特徴は速さと運動性そして離発着性能が優れていることであり、それらの多くは滑らかな楕円形主翼と搭載された発動機によるところが大きかった。Mk.V型は約1,200馬力のマリーン45エンジンを搭載することで最高時速600km/hを獲得したタイプで、全形式の中で最も多い約6千機以上が作られている。

## 2. キットについて

キットは21世紀になってから開発された新規金型によるもので、形状・モールド・組み立て精度とも十分に満足のいくものです。Va・Vb・Vcで主翼(武装)が異なることから、6種類(+スペシャル)の全てがVb型を再現しています。また、塗装に合わせてノーズコーン長さの異なる2つのプロペラが用意されています。

## 3. 製作と塗装について

購入時に施されている塗装が結構強固で、クレオスの真・溶媒液を用いて無理やり剥がしました。機体の形状に関しては脚カバーの薄々攻撃や機銃孔開口、ピトー管基部の追加を行った程度でほぼ素組みです。

塗装は友人Eに借りた洋書に側面イラストのみ掲載されていた、ノルマンディー上陸作戦時のものを再現しました。インベイジョン・ストライプスの為全体にクレオスの白色の缶スプレーを吹いた後、上面にクレオスの126番三菱機内色を、下面に332番アクラフトグレーを筆塗りし、タミヤカラーの調合色(以前RLMグレーとして混色したもの)で上面の迷彩パターンを塗り分けています。コクピット周辺は手元にあったクレオスの薄松葉色を使用。マーキングはMDプリンタで作成したデカールで行いました。イギリス機は塗装やマーキングの寸法規格がきちんとしているようで比較的容易に作成できましたが、曲面への貼付に難儀した挙句胴体の蛇の目の位置を帯1本分間違えてしまいました。デカール保護の為全体に吹き付けるつや消しクリアは今回、AFV模型の作例記事で以前目にしたニッペNEWワイドスプレーのつやなしクリアを使用してみました。



前面



後面

## 4. 製作過程



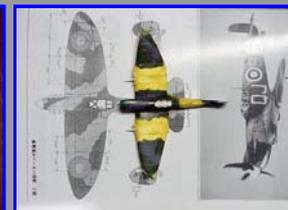
ランナー状態で機体の塗装を落とすところ。



プロペラ回転軸が下がらないよう、機首にエポキシパテを充填。



胴体との合わせを調整する為、主翼貼り合わせ部を若干削っている。



ラッカー系で塗装した上からエナメル系の調合色で迷彩パターンを再現した。